

社会的養護を要する子供たちへの支援プロジェクト

社会的養護とは…?

様々な事情により、家庭や保護者と生活することができない子どもたちを、社会全体で育てていく仕組みや支えのことです。

現在、対象児童は約46,000人います。(H26.3)

スマイルフォアオールミーティング

～社会的養護を要する子供たちに、今、なぜ体験が必要なの？～
子どもの笑顔のために みんなで考え、自分にできることを探す2日間

- 期日 平成27年2月21日(土)～22日(日) ■ 参加人数 35名
1泊2日/日帰り・部分参加可 (大学生・児童養護施設・児童相談所・NPOなど)
- 会場 国立山口徳地青少年自然の家 ■ 満足度 100%

21日 13:30～ 会場参加型トークセッション①

『キャンプ体験が、私にくれたもの』

話題提供者:

- 荒川 美沙貴さん(福岡県・甘木山乳児院)
- 中島 浪子さん(キャンプ参加者の保護者)
- 大西 清文さん(九州ぼうけん王)

「あなたの命をぜったいに守る」という言葉が、本当にうれしかった。(荒川さん)

社会的養護を要する子供たちは、圧倒的に社会体験が不足しています。そして人と関わることを拒否されることが怖い。だから、関わらない。でも「絶対に守る」と言われた時、初めてのことで、本当にうれしかった。

「あなたが帰ってくるのを、家族みんなで待っているよ。」(中島さん)

食卓に子供がいない時、ふと思い出すんです。元気かなあって。その時に、ああ家族の一員なんだなって、みんな実感したんです。

「背景をとらえ、何のためにキャンプをするのか明確にし、帰り方のプロセスをデザインする。」(大西さん)

ただ、単純にキャンプをすればいいのではない。子どもたちに起きていること(イライラや関わり)を観察し、複数の視点で見立てを行う。でも、手は出さない。この経験を、子どもの力でどう乗り越えるのか、そのプロセスが社会に生きる。



21日 子供との関わり方の視点を広げる体験ワーク

- 10:00～ 徳地アドベンチャープログラム体験
- 19:00～ Bodywork 体験 講師: 志賀 誠治さん



【参加者の感想から】

【TAP 体験】

- ・短い時間で参加者のみんなと仲良くなれた。その後の活動もみんなと話をすることができた。
- ・チームで行動する大切さ(心構えや意識)を学ぶことができた。
- ・主体的にみんなが動こうと自然になっていった。

【Bodywork 体験】

- ・はじめて会った方同士のはずなのに、心地よい時間でした。
- ・気持ちいい!
- ・リラックスできて、みんなの距離が近くなりました。

22日 9:00～ 会場参加型トークセッション②

『体験活動に関わって感じたこと』

話題提供者:

- 児童養護施設への食育プログラムの実践
- 金子 夕莉さん(山口県立大学)
- 水野 愛子さん(山口県立大学)
- 一色 結以さん(山口県立大学)

生活・自立支援キャンプ

- 宇江 賢さん(国立吉備青少年自然の家)
- 田村 武士さん(国立山口徳地青少年自然の家)



【金子さん・水野さん・一色さんの話】

「18歳での時限的自立の話聞き、何か自分たちにできることはないか、みんなで考えた」

「自分たちにできることは、食育プログラムを提供すること。」

「ツテはない。資金もない。でも、食育チームとして思いを共有できる仲間がいた。」

大学生だけで何かを企画し、実践することはエネルギーがいること。1人の熱い思いを共有できる仲間がいたから、みんなで相談しながら企画・実践することができた。

【自然の家職員の話】

「『体験だけ』に終わっては、何も変わらない。これを持続可能な取り組みにしてほしい。だからこそ、子供たちに関わる大人の意識を変えたい。」

「子どもの貧困に関する大綱」ができ、国立施設では、生活・自立支援キャンプを全国27の施設で行う。コンテンツ(体験)だけに終わるのではなく、その中で起こるプロセス(子供同士の関わり方や、大人との関係性)に着目し、施設と連携・協働することが大切になる。」